

これまでの“みどり”は・・・

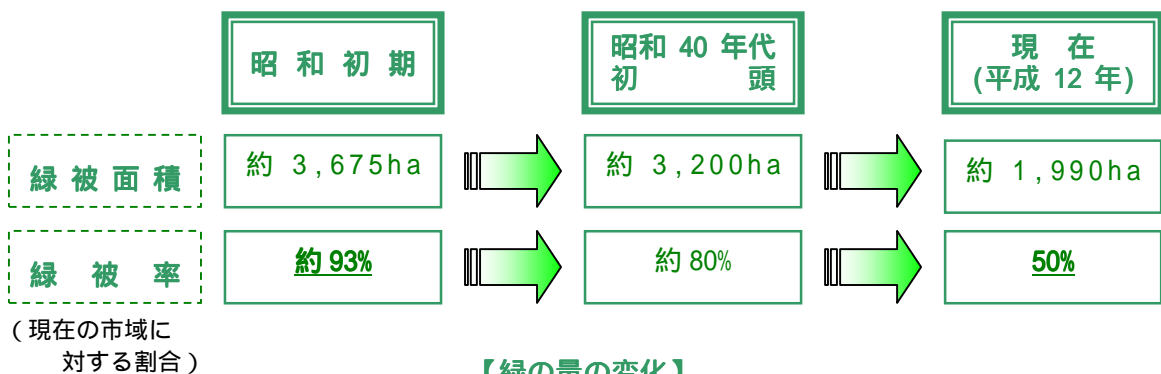
昭和初期までは、現在の市域の大部分は農地が占め、大和三山と貝吹山等の豊かな自然環境に囲まれた田園地域であったといえます。

昭和40年代に入ると、駅の周辺部において市街地が拡大しはじめ、徐々に緑が減少しはじめました。

白檀町に代表される住宅団地開発や、近鉄八木駅から檀原神宮前駅に至る市街地の拡大が進み、昭和初期と現況と比べると大幅に緑が減少しています。

現況の市域全体の緑被率は約50%（市域に対する緑の割合）となっています。内訳は半分以上が水田で、畑、果樹園を含めた農地は緑被全体の65%以上（緑全体からの割合）となっています。また、樹林地は全体の20%未満となっており、市域に占める割合は比較的少ない状況です。

緑の変遷



昭和初期及び昭和40年代初頭の緑被面積は、国土地理院の旧版地図（1/25,000地形図）からの図上計測の概算値。現在の緑被面積は航空写真、1/10,000地形図、現存植生図等より作成した緑被現況図からの、図上計測による面積の内訳。